



## 四つの力で「不確定性」と向き合う



弘前大学大学院教育学研究科長  
福 島 裕 敏

例年よりも早い春を迎える中、創設5年目の教職大学院では、あらたに20名の入学生を迎えることとなりました。これまで以上に多様な背景と専門性を有する方々が加わったことにより、本教職大学院が互いの専門性を尊重し合う多様性に満ちた教育実践の創造の場となっていくことを願っています。

さて、新型コロナウイルス感染拡大防止への警戒が引き続き求められる状況下での新年度の幕開けとなりました。この一年間は、この間の様々な教育政策文書が指摘するところの「予測困難な時代」の到来を余儀なく実感させるものでした。こうした状況下において、巷では、ネガティブ・ケイパビリティという言葉が耳にするようになりました。この言葉は、19世紀初頭の

イギリスの詩人ジョン・キーツのものとして、「すぐそこにある現実と、より完全に理解された存在の様々な可能性とのほざまにある場所」である「不確かさの中（にあること）」を可能にする「答えの出ない事態に耐える力」とされています。また、この力は簡単に解決できないような状況・問題に遭遇している人々（含む自分）に対して、思いやりをもって寄り添い共感する力を下支えするものともいわれています。

そもそも、「教育」という自分とは違う心的システムをもった他者への働きかけとそれを通じた変容をもたらす営みは、アメリカの社会学者ローティがいうように「不確定 (uncertainty)」なものです。この「不確定性」に向き合い、そこにある現実とそこに埋め込まれている可能性を読み解き、答えの出ない事態に耐えながらも、新しい実践を拓いていくことが、教員には求められているといえます。是非、本教職大学院が、理論と実践との往還にもとづき自らの体験を省察する力（省察力）、自身に必要な英知を自ら高めていく力（自律的発展力）、共感をもって人々と協働する力（協働力）、そして課題解決に向かっていく力（課題解決力）を高め合い、新しい実践を拓いていく場となるよう、新しい院生の知見もお借りしながら、院生・教職員が一体となって取り組んでいきたいと思っています。

## 2022年度の教職大学院の入試について

2022度の新たな院生を迎える入試が下記のように決まりましたのでご報告いたします。今年度から新しく推薦特別選抜が実施されます。教職大学院で共に学びませんか。

### 【推薦特別選抜・一般選抜の試験日・出願期間及び進学説明会の日程】

第1期……推薦特別選抜・一般選抜：令和3年10月2日（土）

[出願期間は8月30日（月）～9月3日（金）、説明会は7月28日（水）午後4時]

第2期……推薦特別選抜・一般選抜：令和3年11月20日（土）

[出願期間は10月29日（金）～11月5日（金）、説明会は10月27日（水）午後4時]

第3期……一般選抜：令和3年12月25日（土）

[出願期間は11月29日（月）～12月3日（金）、説明会は11月24日（水）午前10時]

ただし、第1期入試又は第2期入試の合格者が募集人員18名に達した場合、コースによっては以降の募集を実施しない場合があります。

\*詳しくは、ホームページの入試情報をご覧ください。

## 教職大学院新任教員紹介

この4月に教職大学院に人事異動がありました。瀧本壽史教授、古川郁生教授、大瀬幸治准教授（青森県立金木高等学校校長へ）が退職をし、新たに宍倉慎次教授（青森県立青森高等学校校長より）、甲田隆教授（青森県立青森第二高等養護学校校長より）、三和聖徳准教授（青森県立弘前中央高等学校教頭より）、桐村豪文准教授（弘前大学教育学部より）を迎えました。4名の先生方を紹介いたします。

### 宍 倉 慎 次 教 授



この3月で、青森高等学校を最後に高校教員生活38年間に終止符を打った宍倉慎次（ししくら しんじ）です。この間、学んだことは多々ありますが、特に終盤、管理職としての8年間で、「人は生きている限り、an eternal learner として日々研鑽を積み、学び続けること」が最も大切だと改めて認識しました。そして、この度、縁あって本教職大学院で新たな学びを始める機会に恵まれました。このことに心から感謝するとともに、微力ではございますが後進の育成のために院生と共に学びながら尽力する覚悟でおります。本教職大学院では、教育

理論等に造詣の深い研究者教員と教育現場で多様な経験を積んできた実務家教員とのコラボレーションによる授業が展開され、さらに豊富な実習や多くの討論の機会をとおして、院生同士が切磋琢磨し、教員としての資質・能力を高め合っております。今後も多くの現場の先生方や学部卒の学生が本教職大学院に入学し、将来、青森県の教育界をリードする教員に成長してくれることを心から願っております。

### 甲 田 隆 教 授



この3月、青森県立青森第二高等養護学校校長を定年退職し、本教職大学院に着任しました甲田 隆（こうた たかし）と申します。特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱虚弱）に長年勤務し、多くの児童生徒と保護者の皆様と出会い、「障害や病気の有無にかかわらず、多様性を認め合い、今、生きていることを共に笑顔で楽しむ」をモットーに、日々過ごしてまいりました。職場では、多くの先輩・同僚に恵まれ、何事にも前向きに取り組んでくれる仲間ができ、失敗することも多々ありましたが、新しい取り組みにチャレンジすることができ

ました。その後、教育行政を経験する機会をいただき、現場で積み重ねてきた実践を教育行政の視点から振り返ることができました。

本教職大学院では、理論と実践との往還・融合を通じて、教員に求められる4つの力「自律的発展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」のさらなる向上を目指すとされています。この4つの力は、教員にはもちろん必須のものですが、豊かな人生を送る上でも大切な力だと思います。

ここ弘前の地で、生まれも育ちも、考え方も環境も違う院生の皆さんと教職員の皆さんに出会えたことに感謝し、お互いの多様性を尊重し、素敵な時間を共有できることを楽しみに、本教職大学院での実践を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 三 和 聖 徳 准 教 授



このたび弘前中央高等学校教頭から、本教職大学院に着任いたしました三和聖徳（みわ しょうとく）と申します。

弘前中央高等学校は、教職大学院連携協力校として、昨年度はストレートマスター院生2名を受け入れ、また中央高校からミドルリーダー養成コースに1名入学しておりました。コロナ禍ということもあり、様々な制約の中で予定していた実習を十分こなすことはできませんでしたが、それでも授業を含めた学校生活の中で、生徒たちの生の

姿に触れ、担当教員からの指導や助言のもと、日々逞しく成長する姿を実感してまいりました。

今年度からは院生の方々に指導する立場になりましたが、私自身もまた学校教育の根幹について、学びを深める素晴らしい機会と捉えております。31年間の教員生活を省みて、現場におけるさまざまな経験等をもとに、院生の皆さんの課題探究や実習に少しでも有益になるようなお話ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 桐村 豪文 准教授



2018年3月に弘前大学に講師として着任し、この4月より教職大学院に異動することになりました桐村豪文（きりむら たかふみ）と申します。3月まで本学教育学部に在籍しており、そのときから教職大学院の科目も担当させて頂いておりましたし、今年度も引き続き学部の科目を担当しておりますので、外形的には大きな変化はありません。が、4月に入ってからの僅か数日の経験から、実は大きな環境の変化の中に身を置いていることを知りました。この変化に何とか順応し、様々な求めに応えられるよう努力していきたいと

思います。

私はこれまで理論研究を主としてきました。教育行政学の分野では珍獣の部類に属します。自分の師匠の先生からは、もっと現実的なことを研究しなさいとよく指導されました。ですから余計に、学校現場の現在進行形の変化を生で体験してこられた先生方の経験知の厚さにはいつも敬服させられます。私が貢献できるとすれば、全体を俯瞰する視点のもとに、目下の変化の意味を考えられるための理論的な基礎を提供することだと思っています。とはいえ私もまだまだ未熟で、院生の皆様と共に学び続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 大学院教員を校内研修会等でご活用ください！

本教職大学院では、本大学院教員を謝金、旅費ともに無料で、各校の校内研修会等に派遣する活動を行っています。

この活動は、本大学院の実習の1つとして行うもので、本大学院の現職教員院生が、講師派遣の依頼を受けた大学教員に帯同して研修会等に参加させていただくことで、研修会等の運営の仕方を学ぶこと等を目的としております。つまり、この活動で、謝金や旅費が無料になるのは、本大学院の実習の一環として行われるからです。

講師派遣の申込方法は、申込用紙1枚をFAXで送信するだけです。申込用紙の様式は、本大学院のHPに掲載していますので、御覧ください（「弘前大学大学院教育学研究科」で検索）。事後の報告書の提出等も不要です。

申込は随時受け付けますが、早ければ早いほど、皆様のご希望に応えられる可能性が高くなります。ぜひ、ご検討ください。



## 入学院生からのメッセージ

### \*ミドルリーダー養成コース

#### 大平 慎悟（七戸町立七戸小学校）



「大学院で学ぶ子どもたちを前にして、日々の職務に追われている中では思い浮かばない選択でした。校長先生

から初めて今回のお話を伺ったときには、不安や戸惑いの気持ちが先に浮かび、判断に迷いました。しかし、校長先生や先輩の先生方からアドバイスを頂き、自分自身が学級経営や校内研究を推進していく中で、迷い悩んでいた課題を解決したり、これまでの実践を今一度振り返ったりしていく良い機会なのではないかと考えられるようになりました。このような機会を頂いたことに感謝の気持ちを忘れず、これからの2年間で多くの事を吸収し、所属校の先生方、地域の教育活動そして子どもたちに、学んだことを少しでも還元できるよう研鑽を積んでいきたいと思ひます。

#### 葛西 彩（鶴田町立鶴田小学校）



教職に就いてから、充実した教員生活を送ってきましたが、日々の忙しさを言い訳に、自分の指導等につ

いてきちんと振り返ることはほとんどありませんでした。そんな中、教職大学院で学んでみないかというお話をいただき、大変有り難く思っています。新しい環境に飛び込むことは大人でも勇気のいることで、これから始まる講義や実習等に緊張と不安を抱えています。でも、教職大学院で関わるたくさんの方々からたくさんのお話を聞き、これまでの自分の見方・考え方を広げられる機会への期待の方が大きいです。

せっかくいただいたこの貴重な2年間。教職大学院で学修することを自分の経験に結びつけ、今後の教員生活に役立てていけるよう、積極的に学んでいきたいと思ひます。

#### 金田 大輔（田子町立田子中学校）



講師として9年、教諭として13年、三八上北地方で7校の学校を巡り、学担や学年主任を始め様々な仕事を経験してい

ました。成功もありましたが、上手くいかなかったことの方が多く、周りの先生方に助けをもらってばかりだったと感じています。私は工学部出身で教育についての学びはほとんどが現場での実践しかありません。そのため、大学院で教育について学んでみたいという思いは以前から持っていたので、この話は願ってもないチャンスだと思ひ、進学を決意しました。教職大学院では、校種、地域の違う先生方やストレートで進学した大学院生が集まって共に学びます。これは、現場ではできない経験です。このような学びの機会を与えてくれたこと、送り出してくれた現任校の職員に感謝の気持ちを忘れずに2年間しっかり学びたいと思ひます。そして、学んだことを今まで私を支えてくれた現場の先生方に還元したいと思ひます。

#### 須藤 千代子（黒石養護学校）



教職大学院に入学して、2週間ほど経ちました。環境が変わり、ミドルリーダー・ストレートマスター合わせ

て20名でスタートした院生生活ですが、毎日、より専門的な講義と熱い討論・演習等でたくさんの刺激を受けて、毎日充実した生活を送ることができています。大学を卒業して、教員として小学校と特別支援学校で勤務してきましたが、それぞれの校種での勤務年数が半々になり、改めてこれまでの経験や実践を振り返ってみると、知識や理論が不足していることがたくさんあると感じました。今回、教職大学院で学修する機会をいただいたことで、その経験や実践を理論と結びつけて、さらに専門性を高めていきたいと思ひています。2年間という貴重な機会をいただいたことに感謝する気持ちを忘れず、積極的に学んでいきたいと思ひます。

**田中美紀（青森第二高等養護学校）**

入学し、2週間が経ちました。諸手続きや各種ガイダンスを終え、いよいよ始まった講義や実習に、不安

と期待を感じています。また、今まで経験したことのないペースでの予習や振り返りなど、不慣れな事が多いですが、教職大学院の先生方をはじめ、校種や勤務地域の異なる現職教員の皆さんやストレートマスターの皆さんとの会話からも多くの発見があり、充実した毎日です。これまでの自分自身を振り返ると、日々の業務に追われ、内容を十分に深めたり、丁寧に振り返ったりすることができずにいました。今回、大変貴重な機会をいただきました。講義や各校園及び教育関連施設での実習、教育実践研究等を通して、理論と実践を結びつけ、新たなものを築いていきたいと考えます。そして、2年間の学びを、さまざまな場面で還元できるよう、日々学び続けたいと思います。

**成田悠仁（藤崎町立藤崎中央小学校）**

教職について14年目。これまでと違う新しい学びのチャンスをいただいたことへの感謝とわくわくした気

持ちでいっぱいです。弘前大学教職大学院には、豊富な専門知識をもち、私たち学生に対し親身になってくださる先生方がたくさんいらっしゃいます。また、ミドルリーダー養成コースの同僚の先生方（同級生？）は校種も年齢も異なり、それぞれの現場の生の声を教えてくださいます。さらに、ストレートマスターの皆さんと大学のことや学校現場のことなどを教え合い学び合うことを通して、自分の無知を自覚するとともに新鮮な発見や刺激をもらうことができ大変勉強になります。このような最高の学びの環境をいただいたからには、今の自分にできる最大限の努力をして少しでも力量を高め、現場に戻ったらそれを同僚の先生方に還元し、子どもたちのために力を尽くすしかない！と考えております。よき学び手になれるよう頑張ります。

**平山しのぶ（青森西高等学校）**

今年度、このような研修の機会をいただきまして大変感謝しております。勤務校の先生方や家族、関係する全ての人たちに感謝の気持ちで一杯です。

今年の3月に卒業生を出し、その生徒たちには、「さあ君たちは、ここからが人生のスタートです。良くも悪くも自分次第です。自分のやりたいことを、悔いの残らないようにやってみよう。」と話しました。私はたくさん悩んだ結果、教職大学院に行くことを決めました。いつもこのままでいいのだろうか、忙しさに流されていないか、今の自分が目指していた教師なのか？という気持ちがありました。現場にいと、じっくりと時間をかけて物事を考えることはなかなかできません。今まで疑問に思っていたことや悩んでいたことを、大学の先生方や仲間たちと共に話し合いながら、どうすれば生徒が笑顔でいられるか、生徒個人の良いところを引き出してあげることができるかを考えていきたいです。今は他校種や他教科の仲間たちとの会話がとても新鮮で、日々新たな発見を感じています。様々なことを学び経験して、自分が思い描いている教師へ近づけるよう努力していきます。

**元木龍太（青森市立油川中学校）**

今年度から教職大学院で学ぶことになりました中学校社会の元木龍太です。福島研究科長、中野専攻長を

はじめ、大学院の先生方、同期の現職教員の先生方、大学院生の皆さんとともに教育についてより深く学び、理論と実践の力を高めたいと思います。加速度的に変化する現代社会において、教育理論や方法も対応して進化する必要があります。一方で、日本が長年積み重ねてきた教育も大切にしなければなりません。「不易」と「流行」そして「先見」を意識し、自分自身が新しい常識を日々アップデートしながら、未来を生き抜く子どもたちをはじめ多くの人の幸せのために、きっかけを与えられる存在になる様、励んでいきたいと思ひます。道半ばで離れざるを得なかった生徒たちや、頑張っ

て来いと背中を押してくれた職場の先生方をはじめ、機会を与えてくださった尊敬する師のためにも志をもって精進したいと思います。

### \*ストレートマスターの院生

#### 伊藤 未祐 (学校教育実践コース)



私は大分県立芸術文化短期大学に2年、その後弘前学院大学の3年次編入を経て、本学教職大学院に進学いたしました。

私はこれからの2年間で主に2つの柱で実践研究活動に取り組んでいきたいと考えています。一つ目は、教科の専門性をより高めていくことです。私は現在、国語と音楽の免許を保持していますが、どの教科を選択しても、変わらず充実した学びを提供できる知識や技術を備えた教員を目指したいと考えています。二つ目は、学校教育全体を幅広く理解し、多角的に見つめ、捉え直すことです。私は実習の経験も少なく、学校現場に関して理解しきれていない部分が数多くあります。理論的、実践的に力を身につけ、学校現場の諸教育課題に対し、臨機応変に対応できる力を身につけたいと考えています。

以上の二つを柱に、子どもたちに充実した教育活動を提供できるよう、ひたむきに研鑽に努めてまいりたいと思います。

#### 葛西 泉花 (学校教育実践コース)



私は弘前大学の養護教諭養成課程で4年間学んできました。学部3年生の時に一度、教職大学院の講義を見学できる機会がありました。子どもたちの防犯に関する講義で、とても貴重な経験でした。また、学部での講義より講師の方々や教授との距離が近く、より深い学びが得られるように感じました。さらに先輩方からもお話を伺い、多様な経験を持つ院生と同じ場で学ぶことで、自分の視野を広げ、より多角的に養護を捉えることができるようになることを確信しました。私はまだ自分の力に自信を持っていませんが、大学院の恵まれた環境の中で、様々な知識や実践力を身につけ、修了後も自力で学び

続けられる教師を目指していきたいです。まだ不安も多く緊張していますが、貪欲に課題に取り組み、理想の養護教諭に近づけるよう精進して参ります。

#### 仲村 みなみ (学校教育実践コース)



私は、本学の教育学部養護教諭養成課程を卒業し、この教職大学院へ進学しました。学部では、養護教諭

の職務に特化した講義・演習を中心に学びました。養護教諭は、学校内外を繋ぐコーディネーターの役割を担う存在です。しかし、他の教諭がどのようなことを考えて子供たちと関わっているのかわかる機会が少なく、スムーズな連携が難しいと私は考えています。そこで、ミドルリーダーコースの現職の先生方にお話を伺ったり、より学校現場に近いところでの実践的な演習や実習を行ったりできる教職大学院への進学を決意しました。将来は、子供・保護者・教職員それぞれのニーズを汲み取り、子供たちの健康意識の向上に繋がられるような養護教諭を目指しています。その実現のため、専門的な知識はもちろん、主体的に人に働きかける力を身に付けていききたいと思います。2年間、よろしくお祈りします。

#### 木村 郷 (教科領域実践コース)



私は弘前大学教育学部の小学校コースを卒業してきました。元々、小学校の教員を志望していましたが、4

年間を通して高校の教員になりたいという気持ちが強くなりました。高校での実習は経験していなかった為、自分の実践力への不安を感じると同時に、高等学校における「保健体育」という教科の在り方や、生徒の運動やスポーツに対する意識についてもっと研究していきたいと考えようになりました。このような考えから進学を悩んでいた際に、ゼミの先生の助言もあり進学することを決めました。教職大学院での理論と実践の往還を通して、現場の先生方や大学院の先生方と意見を交わしながら、課題解決の為に2年間頑張っていきます。よろしくお祈りします。

## 島津 杏佳（教科領域実践コース）



私は2年間の学びを通して、「考える」ことと「伝える」ことを大切にしていきたいと思います。これまでも、答え

が一つではない事を「考える」機会は多くありました。そのような時、いつのまにか自分の答えには正しさがあるか…？とどこか不安を抱いていました。そして、私は自分の思いを自分の言葉で「伝える」ことに対して苦手意識が強くなっていきました。これから自分で「考える」たくさんの場面で、なぜそう考えるかの理由をしっかりと持ったうえで「伝える」ことができるようになりたいと思います。また、何事にも恐れずに挑戦し、たくさんの失敗を乗り越えながら成長していきたいと思っています。少し新しい環境に変わり不安な気持ちでいっぱいですが、限りある時間のなかで学べる機会と環境があることに感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

## 中川 大輝（教科領域実践コース）



義務教育期間を弘前で過ごし、その後の高等学校、大学、そして大学院まで弘前で過ごす事に自分でも驚

いております。教職大学院に入学を無事果たしましたが、自分が思っている以上に忙しい場所であると感じました。一方で、現職の先生方も学びに来ているという不思議な環境に戸惑いつつも、学部にはない新鮮さがあり、是非交流していきたいと思っています。そのような少し変わった環境の中でこれから頑張っていけるか不安なのですが、自分はここだからこそ学べるものを身につけて教員になりたいと考えています。具体的には教職大学院を卒業する頃には胸を張って職場に立つことができる事を目標に努めていく所存です。恵まれた環境と時間の中でしっかり学べる機会はこれから先そうそう無いと考えています。それを棒に振る事無く、費やした時間分、自身の力に変えていくようにこれから頑張りたいと思います。皆様宜しくお願いします。

## 中島 柊太（教科領域実践コース）



はじめまして。弘前大学理工学部から進学しました、中島と申します。教育学部での生活がまだどのような

ものなのかわからず少し心配ですが、周りの先生方と助け合いながら学びたいと思っています。また、大学院での学びを通して自分の個性を磨き、授業・生活指導等、様々な場面において、生徒のよき理解者となり、尊敬される教員となれるよう努力していきます。特にコロナ禍の今の世の中では、教育の方法が大きく変わり、教員の対応が生徒の将来を大きく変えようとしています。そこに対して今の自分が教員になってできること、しなければならぬことを常に考え、トライ&エラーを繰り返しながら成長できるように、教員になったつもりで日々の学びに取り組んでいきたいです。

## 濱谷 大輔（教科領域実践コース）



私は弘前大学理工学部数物科学科の出身で、より多くの実践経験を積みたいと考え、教職大学院への進学

を決めました。地元である青森県で教員として働いていくために、教育に関する知識や青森県の特徴等、様々なことを吸収していきたいと思っています。私が教員を目指すようになったのは、授業や学校行事、部活動等を通して、生徒と共に活動し、目標を達成していくことにやりがいを感じたからです。生徒の成長を一番近くで見守ることができるこの仕事は素晴らしいものだと思います。活動の主体である生徒を側で支え、全ての生徒が成長を実感できるように、教員としての能力を身に付けていきたいと考えています。学部の頃とは環境も変わり、正直ついていけるか不安に思うことも多々ありますが、他の院生の方々と励まし合い、支え合いながら勉学に励んでいく決意です。充実した2年間にできるよう頑張ります。

### 三浦 峻 敬（教科領域実践コース）



数学の中学校教諭を目指し教職大学院へ参りました、三浦峻敬です。東京理科大学理学部第一部を卒業し、今

年度からは教育学研究科でより教職に特化した学びを深めたいと考えています。また、高校までは青森市に住んでいたため、4年ぶりに地元青森で学修できることに懐かしさや嬉しさも感じています。教職大学院は現職の先生方と共同で講義を受けたり活動したりできる点に魅力を感じ、どんな刺激や感動を得られるかわくわくしています。講義や実習を通して自分の教育観や理想の教師像を創造していき、何段階も成長した姿で堂々と現場に立ちたいと思います。教職について研究しながら学生らしさも忘れずに楽しむ、そんな2年間を同じ志を持つ心強い仲間たちと共に



に過ごしたいと思います。皆さんどうぞ、よろしくお願い致します。

### 宮野 純（教科領域実践コース）



私は、農学生命科学部の生物学科を卒業して教職大学院に入学しました。教職大学院は学部卒院生と現職

教員院生と一緒に学ぶことができるので、生の学校現場の話の聞くことができるため本当に良い学習環境だなと実感しています。私は、学部時代に新型コロナウイルスの影響で教育実習をあまり受けることができず、模擬授業もほとんどすることができませんでした。教職大学院では、非常に多くの実習を設けているため、自身の授業力の向上を図っていきたいと思います。また、私は高校の理科教員を志望しています。理科教育の課題を解決するためにたくさんのことを教職大学院で学

び、実習を通して授業実践していきたいと思っています。未熟ですが、よろしくお願いします。

### 森川 喜 介（教科領域実践コース）



教科領域実践コース一年の森川喜介です。これから二年間、弘前大学教職大学院で様々なことを学んでい

きたいです。三月までは弘前大学理工学部に在学していましたが、新型コロナウイルスの影響で教育実習が本来よりも短い期間しか受けられませんでした。しっかりと教員としての準備をしたいと考えて教職大学院を受験し、無事入学できたことに今は安心しています。多くの実習や演習のある講義を受けることができるので色々なことを経験できる期待感と反面、とても忙しいと聞いたので不安もあります。教授や先輩方に助けていただき、同期のメンバーと支え合いながら胸を張って二年後に修了できるよう頑張ります。また、ICT教育に興味があるので、二年間研究ができたらと考えています。至らない点もあると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 野村 直 樹（特別支援教育実践コース）



特別支援教育実践コースの野村直樹です。

地元を離れて初めての東北、初めての弘前に来まし

た。入試の時は雪の多さに衝撃を受け、この先やっていけるのか不安に感じましたが、入学後だんだんと暖かくなり、桜が美しく咲いてくる頃には、穏やかな弘前の生活にすっかり慣れてきました。これまで私は特別支援学校で2年半、講師として勤めていました。そこでは素敵な児童生徒との出会いが沢山あり、彼らにより良い生活をおくってもらいたいと思い、弘前大学大学院でもう一度院生として学ぶことを決めました。本教職大学院では、児童生徒が様々な場面で自己選択・自己決定を行うことができる教育実践について研究していきます。充実した2年間にできるように精一杯取り組んでいきたいと思っています。

## 本音で語り合い！ 院生と教員のFD（懇談会）

本教職大学院では、FD（ファカルティ・ディベロップメント：教育内容等の改善のための組織的な研修の取組）の一環として、半期ごとに「院生と教員による懇談会（以下、懇談会）」を実施しております。院生と教員が共に一年間の授業や実習等の課題やその解決方法を探ることにより、様々な観点から率直な意見や改善方策が出され、本教職大学院の運営改善に結びついています。

以下に令和3年2月19日（金）に開催した懇談会の様子の一部を紹介します。

### 授業等について

【意見】オンライン授業のための Web カメラ・マイクを院生用にも配備していただきたい。

【回答】オンライン授業に対応できるよう、院生に貸与しているすべてのパソコンについても、Web カメラ・マイクを購入、配備する予定です。

【意見】対面授業の際も配布資料を最低限とし、補助資料は PC やタブレット上の Teams で閲覧する形を継続していただきたい。

【回答】著作権法により、すべてをオンライン配布とすることはできませんが、より効果的・効率的な方法で適切に対応していきたいと考えています。

【意見】統計分析の基礎的な内容と具体例について、教育実践研究 I で取り扱うことは可能でしょうか。あるいは統計分析に関する内容を取り扱う講義を後期に行うことは可能でしょうか。

【回答】教育実践研究法 I の中で取り扱うことは可能ですが、時間的な余裕があまりないと思われます。また、1 年次前期は他の必修科目の授業が多くあるため、後期以降に適宜勉強会を開く、他の授業科目で取り扱う、などの対応が考えられます。統計分析については、後期の「教育心理学特論」でも取り扱っているため、次年度以降は共通科目としての位置付けについても検討します。なお、統計分析は研究目的に迫るための一手段であり、まずは研究テーマを適切に設定することが先です。目的と手段に留意して進めていただければと思います。

### 実習関係について

【意見】2 年次の勤務校実習について、指導教員が同行し説明をいただく体制が必要と考えます。

【回答】本実習については、これまでも1 年次の10月に指導教員が勤務校に赴き、校長にその目的や内容を説明してきています。また、1 年次の2～3月に指導教員が勤務校に伺う機会を活用し、院生が2 年次に予定している実践研究について管理職や同僚の先生方に説明する際に指導教員が同席することも可能です。まずは、指導教員と2 年次の取り組みについて十分話し合ってみてください。

### 成果・年次報告会について

【意見】可能な限り対面とオンラインのハイブリッドでの開催を検討していただけないでしょうか。

【回答】発表会をより多くの方に見ていただき、研究活動の発展のためにご意見をいただけるよう、対面とオンラインのハイブリッドでの開催について検討していきたいと思えます。

### その他

- ・コロナ禍で学内もバタバタしている中、リモートでの切り替えを含め、丁寧に対応して下さりありがとうございました。



## 教育実践研究発表会（年次報告会・最終報告会）を弘大にて実施

令和3年2月12日（金）に「教育実践研究発表会」が行われました。

教職大学院では、実習や教育実践研究を行い、学校課題や教育課題に対応できる理論に基づいた実践力を身につけることを目指しています。教育実践研究では、2年間に渡る実践研究の成果を10頁の「学習成果報告書」としてまとめます。そのプロセスとして、大きな役割を果たしているのが、2年間で3回の報告会です。1年次の2月に4頁の報告書とプレゼンテーション資料を作成し「年次報告会」を、2年次の10月末頃に6頁の報告書とプレゼン資料で「中間報告会」を、そして2年次の2月に10頁の報告書とプレゼン資料で「最終報告会」を行います。



「年次報告会」と「最終報告会」は同日に開催され、「教育実践研究発表会」と呼んでいます。

「教育実践研究発表会」は、研究の成果を発表し質疑応答を通して、生み出された知見を共有し、残された課題・新たな課題を確認する場であると同時に、教職大学院の活動を広く県内外の教育関係の方々を知っていただく場ともなっており、例年、青森県総合学校教育センターをお借りし実施して参りました。しかし、全国的に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したこともあり、令和2年度の教育実践研究発表会はやむなく弘前大学を会場に実施いたしました。会場が密にならないようできる限り配慮し、換気・消毒にも気を配りながらの実施でした。中間報告会は、コロナ禍の影響でオンラインでの実施となったこともあり、教育実践研究発表会が対面でできたこと



と、さらに感染症を発生させることも無く終えられたことに安堵しております。



4会場に分かれ、1年次院生は12分の発表に3分の質疑応答、2年次院生は20分の発表に7分の質疑応答を行いました。院生は、資料作成、想定される質問への回答準備、プレゼンデータのチェック、対面での練習、オンラインの場合を想定してのプレゼンのチェックなどの準備を整え、この日を迎えました。幸い、予定通り対面で実施できることになり、これまで研究した成果を精一杯報告させていただきました。参加された教育関係者からは、様々な視点から質問や提言がなされ、2年次院生にとっては最後の大きな学びの場となり、1年次院生にとっては、これまでの研究を振り返るとともに、2年次に向けて研究の方向性を確認する場ともなりました。今回の教育実践研究発表会に際し、多面的な視点で御助言・御講評くださいました弘前市立大成小学校長 山田司先生、青森市立三内中学校長 渡邊諭先生、青森県立弘前中央高等学校長 菊地建一先生、蓬田村立蓬田小学校長 澤田裕一先生に心からお礼申し上げます。また、質問・提言を通して院生に多くの気づきと励ましをくださった県教育委員会の先生方を始め、御参加くださった皆様にも心からお礼申し上げます。おかげ様で、これらの実践を通して、現代的教育課題解決のための洞察力や課題解決を先導する力が高められましたこと心から感謝しております。

### 〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻  
(教職大学院) News Letter 第13号 2021.5.19発行  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
Tel 0172-36-2111 (代表)  
メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp  
HP 弘前大学教育学部(教職大学院をクリック)  
弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会